

漢法苞徳塾資料	No. 200
区分	治療論
タイトル	全機的調節と局面的調整を統合した治療システムの提案
著者	八木素萌
作成日	1997.05

◎直接的には具体的な疾患の治療と言うことが出来ないかも知れないが、体調をバランス良く整えてやる事によって、ある疾患を具体的に治療する為に、その基礎的条件を整備する方向に作用させるように運用できるだろうと思われる種々の関係が考えられる。

経絡と臓腑、体構成成分と構造、上下と内外、寒熱と燥湿、三陰三陽と五臓、運氣と体質傾向、気・血・榮・衛、など等やその他も有るだろう。別の表現をすれば、内蔵的な（つまり五臓六腑の関係の機能的な）バランス、経絡相互間のバランス、五体論的な（気血肉筋骨、または、皮毛腠理・血脈・肌肉・筋・髓。身体の五段階の層的なもの間の）バランス、運動機能的バランス（二側面＝担任機能～駆動力機能の側面・担任機構＝筋骨等の機能の側面）、機構構造（建造物の力学構造的、有機物の諸要素間の相互的連関における）のバランス、構成的バランス（前面・後面・上下・前後・左右などでの）その他と表現できよう。

この点に、所謂、全体的な調整の問題を研究できる側面があるだろう。治療において、本質的・基底的な全機的調整の側面と、局所的・現象的・部分的な側面の部分的調整と、これらの二つの側面を見ることができる。全機的調整と現象論的側面の調整の二側面は、緊密な関連性を帯びている。

この両面を体系的に統合した治療的システム、または両面が論理的に整合的に構築された治療システムは、多数の治療家に待たれている。

未完